



「初めに言があった」

キリスト教センター長 藤倉哲哉

大学で学び始めたばかりのころ、先生や先輩に「言葉を大切に、正確に使いなさい」と繰り返し指導されました。法学部は特に厳しかったのか、学術用語や法律の条文など言葉を正しく使うことは、思考・議論の基礎だと教えられました。裁判では言葉の解釈の違いで有罪か無罪か、生か死かというように判決が両極に分かれることもあるからです。

みなさんも学部を限らず、大学で使う教科書・基本書を初めて手にしたとき、それまでとは違って術語(technical term/term)・用語の難解なことに戸惑ったことでしょうか。“term”はあくまで特定の学問や職業で使われる「専門用語」なので、聞きかじりや覚えてはとたく使いたくなるものですが、知ったかぶりは危険な誘惑です。しかも言葉は正しく使わないと学問上の間違いだけでなく、友人間のミスコミュニケーションや社会的に炎上を惹き起こしたりすることもあるので注意が必要です。

好むと好まざるとに関わらず言葉は刻々と姿や意味を変え、親と子の世代では全く違った意味に使われるようになることもあります(QRコード参照)。いままでなかった言葉が新しく作り出され、省略されたり圧縮されたりする言葉もあります。さらに、誰にでもわかりやすいようひらがな表記にしたり、やさしい類語に言い換えたりするようになっています。このように言葉は変わりゆくものですが、意図的に違った意味に用いたり、ぞんざいに扱ったりしないよう心に留めておかなければなりません。

意識もせずに読んだり、考えたり、話したり、書いたりする言葉ですが、今一度ゆっくり考えながら読み、考えながら話し、考えながら書くことの大切さを思い起こして下さい。

なぜなら、手のひらの上だけでレポートは書けないのだから…。

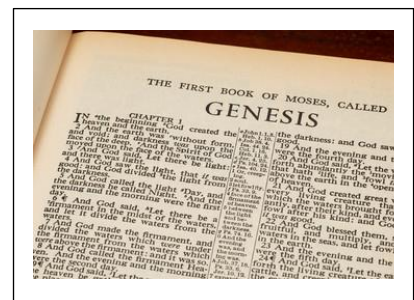


文化庁HP ことばのQ&A

ひとくちメモ

1:初めに言(ことば)があった。言は神と共にあった。言は神であった。2:この言は、初めに神と共にあった。3:万物は言によって成った。成ったもので、言によらずに成ったものは何一つなかった。(ヨハネによる福音書 1:1-3)

このヨハネによる福音書第1章は、聖書の中でも最も有名で、最も重要な箇所のひとつです。旧約聖書の「天地創造」を記した創世記第1章の「光あれ」という一節と併せて、「この世界は神によって作られた」ことが語られるところです。





ウクライナのための祈り

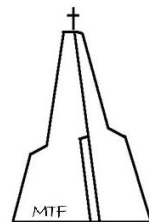
正義と平和の神よ、
わたしたちは今日、ウクライナの人々のために祈ります。
またわたしたちは平和のために、そして武器が置かれますよう祈ります。
明日を恐れるすべての人々に、
あなたの慰めの霊が寄り添ってくださいますように。
平和や戦争を支配する力を持つ人々が、知恵と見識と思いやりによって、
み旨に適う決断へと導かれますように。
そして何よりも、危険にさらされ、恐怖の中にいるあなたの大切な
子どもたちを、あなたが抱き守ってくださいますように。
平和の君、主イエス・キリストによってお願いいたします。
アーメン。

ジャスティン・ウェルビー大主教
スティーブン・コットレル大主教

A Prayer for Ukraine

God of peace and justice,
we pray for the people of Ukraine today.
We pray for peace and the laying down of weapons.
We pray for all those who fear for tomorrow,
that your Spirit of comfort would draw near to them.
We pray for those with power over war or peace,
for wisdom, discernment and compassion to guide their decisions.
Above all, we pray for all your precious children, at risk and in fear,
that you would hold and protect them.
We pray in the name of Jesus, the Prince of Peace.
Amen.

Archbishop Justin Welby
Archbishop Stephen Cottrell



ウクライナのための祈り (カード) 日本聖公会東京教区のページへ